

愛知県支部社会貢献委員会
2020 年度活動報告及び 2021 年度活動計画

1	食問題研究会	1
2	企業活動研究会	3
3	わいがやWG	5
4	理科支援担当	7

活用促進担当については、2020年度の業務紹介案件はなく、報告事項もありません。

2020年度 食問題研究会の活動状況報告

2021年4月8日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 食問題研究会

1. 2020年度のWGの主な活動状況

新型コロナウイルスの影響で3月の例会が中止になったが、4月からzoomによるリモート会議に切りかえ、49回から58回まで(通算245回から254回)の会議を開催した。

食問題研究会は、当初品質・環境規格の日本への導入の流れを受けはHACCPを中心としたテーマの勉強会として出発したが、現在では、生産から消費に至る幅広いテーマを取り扱うようになって来ており、技術士以外の参加者も含め、毎回5人~9人位食品をめぐる最新の社会的・技術動向についての議論をしている。

2020年度も、主に食を中心としたものであったが、環境問題とも絡む容器包装のプラスチック生産技術や新型コロナの話も適宜取り上げた。

2. 2020年度の当初計画

1) テレビ会議システムの立ち上げと試行

非接触型の在宅会議システムを立ち上げ試行確立し、新型コロナウイルスの影響というピンチを新情報システム導入の好機に変えるよう努力する。

2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化、食の生産・流通・消費と食の品質と安全に関する情報の収集と討議

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組み

4) その他

3. 活動実績

1) テレビ会議システムの立ち上げと試行

Zoomによるリモート会議を立ち上げ、定期的にリモートによる会議を定着化させることが出来た。

2) 食品関連情報の交換討議

本堀氏を中心にメンバーから、新聞・雑誌・その他からの情報提供があり食品問題に関連する報告と討議が行われてきた。最近の主な話題は、ゲノム編集技術と食品産業への応用動向、機能性食品等食品の表示問題、食中毒関連情報、添加物等食の安全性問題、食品ロスと廃棄物問題、食品容器・包装と環境問題、食品関連法規制等の多岐に渡るが、今年は新型コロナに関連するPCR検査や感染動向も話題となった。

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

食品関係は、スーパーや末端の小売は、新型コロナの影響をそれほど受けていないが、外食産業が大きなダメージを受け、この影響が仲卸しやこれに関連する生産者にも大きな影響を与えた。このあたりの情報の整理や会員向けの情報発信は不十分のままに終わった。

4) その他

見学会・試飲会の開催など従来実施したことのある企画も今年度は、話題にも上らなかった。

4. 予算と実績

Zoomの無料版での対応が中心であったため、活動費は、発生しなかった。

(代表 本堀雷太 会計 長谷川欽一)以上

2021 年度 食問題研究会活動計画

2021 年 4 月 8 日

中部本部愛知県支部社会貢献委員会 食問題研究会

1. 今期の基本方針

旧愛知県技術士会の WG として 1998 年に設立され食問題研究会(旧 HACCPWG)は、2020 年度もリモートでの会議で活動を続け、今まで合計 58 回（発足以来 254 回）の研究会を開催してきた。この 2020 年は、社会全体としてのデジタル化が急速に進み、この流れは、コロナ後も変わらぬ、時流の流れとなりつつある。各企業においても、こうしたデジタル化への対応が、定着しつつある。

社会全体が、デジタル化で変化する中、我々の生活の基本となる食の問題は、どのような変化の波に直面しているのか、今期は、コロナショックがもたらした食への影響も含めて、幅広い観点から、食問題を考えてゆきことにする。食問題は、エネルギー問題と同じく国の根幹を支えるテーマの一つであり、ここには、次のような分野が含まれている。

- 1.生産・流通・・・農水産・環境問題・・・GAP・遺伝子組み換え
- 2.加工・保存・・・食品生産・保存・保冷・包装・・・HACCP
- 3.調理・摂取・・・栄養学・食文化
- 4.消化・吸収・排泄
- 5.食のリサイクル・・・食の流通・環境問題

多くの技術者は、何等かの形で食問題に関係していることを考えるとさらに幅広い技術者が食問題に関心を持つよう活動を進めてゆく。

2. 今年度の主な活動内容

1)テレビ会議システムの維持と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2)食品関連情報の交換討議

食品と食文化、食の生産・流通・消費と食の品質と安全に関する情報の収集と討議

3)食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組み

3. 定例会議とスケジュール

1) 毎月の定例会議 毎月第 2 土曜日 午前 10:00～12:00(花車ビル北館 B2 会議室)

2) 定例会議スケジュール 但し当面 zoom によるむリモート会議

月	4月	5月	6月	7月		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例	59回 255回	60回 256回	61回 257回	62回 258回		休み	63回 259回	64回 260回	65回 261回	66回 262回	67回 263回	68回 264回	69回 265回
開催日 (曜日)	10日 (土)	8日 (土)	5日 (土)	10日 (土)		休み	11日 (土)	9日 (土)	13日 (土)	11日 (土)	8日 (土)	12日 (土)	12日 (土)
司会 議事録	犬丸 松田	松田 犬丸	長谷川 日比	花井 前田		休み	森 日比	高松 本堀	前田 高松	日比 長谷川	前田 花井	花井 森	本堀 松田

4. 概略予算.(単位:円) 会計担当(日比、本堀)

WS 支部からの補助	50,000	月例会:会議室使用料、10ヵ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

2020年度(令和2年)企業活動研究グループの活動報告

2021年4月8日

中部本部愛知県支部社会貢献委員会企業活動研究会

1. 2020年度のWGの主な活動状況

2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、対面での会議開催が中止に追い込まれる中、当初計画に乗っ取り、いち早く非接触型のZoomによるリモート会議への移行を試みた。Zoomによるリモート会議には、当初セキュリティへの危惧や戸惑いもあったが、徐々にその環境に慣れ、何とか第244回(4月)から第256回(3月)まで毎月約1回のペースでリモート会議での開催を実施できた。ただ、技術士会会員と一般向けのワークショップについては、リモートでの開催に向けての技術的準備や開催方法への準備が進まず断念せざるを得なかった。

2. 2020年度の当初計画

1) テレビ会議システムの立ち上げと試行

非接触型の在宅会議システムを立ち上げ試行確立し、新型コロナウイルスの影響というピンチを新情報システム導入の好機に変えるよう努力する。

2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

環境・安全・セキュリティ・動向や話題の情報交換と討議。

2) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

エネルギー・環境・災害問題の展望と技術動向について情報交換と討議。

3) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連情報の交換と討議を行う。

4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

今年度の開催は見通せないが、当面パンデミック以後の世界と技術者をテーマに、サプライチェーン等産業構造への影響ワークスタイルへの影響と将来見通し等を議論の場を設けられるよう準備を進める

3. 活動実績

1) Zoomによるリモート会議をいち早く立ち上げ、新情報システムによる会議開催を軌道にのせた。

2) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

プラスチック問題をはじめとする環境問題やCO2削減技術やEV車等エネルギーと自動車を取り巻く技術動向について議論した。

3) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

AI、5G、IoT等をめぐる技術関連動向や政府の技術支援政策の動向等の情報交換と討議を行った。

4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

「パンデミック以後の世界と技術者」をテーマとしたワークショップを構想したが、新型コロナの収束が見通せぬ中、リモートでの開催に向けた十分な議論が進まず、開催を断念せざるを得なかった。

4. 予算と実績

当初会議の使用料としてWeb会議使用料として、25000円、他にワークショップの開催費用として25000円の50000円を想定したが、会議の多くを無料版で行い、有料版での契約が遅れたことワークショップを断念したことから2000円程度で終わった。

(代表松田則雄 会計 長谷川欽一)

以上

2021年度 企業活動研究会活動計画

2021年4月8日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 企業活動研究会

1. 今期の基本方針

旧愛知県技術士会のWGとして1998年に設立され企業活動研究会(旧ISO14000WG)は、2020年度もリモートでの会議で活動を続け、今まで合計256回(愛知県支部の社会貢献委員会のWGとしては、59回)の研究会を開催してきた。この間、社会全体としてのデジタル化が急速に進み、この流れは、コロナ後も変わらぬ、時流の流れとなりつつある。各企業においても、こうしたデジタル化への対応をが、定着しつつあるが、その変化が、急速であるために、新たな課題も浮上しつつある。今期は、こうしたデジタル化の企業の直面する課題を積極的に取り上げるとともに会の活動自身の在り方もデジタル時代にふさわしくその情報発信方法も含めて自己変革してゆく。

2. 今年度の主な活動内容

1) テレビ会議システムの継続と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

2) エネルギー・環境問題の動向報告と討議

エネルギー・環境・変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

3) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連動向の情報の交換と討議を行う。

4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

コロナ下での社会・技術環境変化を踏まえ、パンデミック以後の世界と技術者をテーマに、世界の分断とサプライチェーン等産業構造への影響、ワークスタイル変化の技術者の影響と将来見通し等を議論できるべく、対面・リモート両面からのワークショップの準備を進める。

5) その他環境対策技術及び関係先からの要請対応

自治体や各種団体などからの要望に対応した活動は適宜幹事会と協議して行なう。

3. 定例会議とスケジュール

1) 毎月の定例会議 毎月第2土曜日 午後1:30~4:30 (花車ビル北館B2会議室)

2) 定例会議スケジュール

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例	60回 255回	61回 256回	62回 257回	63回 258回	休み	64回 259回	65回 260回	66回 261回	67回 262回	68回 263回	69回 264回	70回 265回
開催日(曜日)	10日(土)	8日(土)	5日(土)	10日(土)	休み	11日(土)	9日(土)	13日(土)	11日(土)	8日(土)	12日(土)	12日(土)
司会議事録	松田新美	長谷川犬丸	前田松田	野尻花井	休み	新美野尻	犬丸竹崎	竹崎柴田	柴田長谷川	松田前田	花井新美	野尻松田

4. 概略予算(単位:円) 会計担当(長谷川、松田)

WS参加費、〇人×〇円	0	月例会:会議室・Web会議システム利用料 2,500×10	25,000
WS支部からの補助	50,000	ワークショップ等開催諸費用	24,000
		研究会 雑費	1,000
収入計	50,000	支出計	50,000

以上

2021年 YGF（ワイガヤフォーラム）活動計画

2021年4月 森永泰彦

1. 活動の目的

- ◇ メンバー会員の輪番制あるいはその都度気づいた問題に関しで発表、ワイワイガヤガヤ（YG）と討議・意見交換し知見とメンバー間の相互理解を深める。
- ◇ これらの討議の過程で得られた成果を会員技術士のみならず広く一般社会にも発信し、社会の厚生に寄与することを目指す。

2. 2020年度討議内容履歴

4月まではCOVID19の影響で例会を中断していたが、5月からZoomによるリモートで再開することとなった。

日付	スピーカー (敬称略)	テーマ
2020/5/27	高木 俊一	Fourth Turning (フォース・ターニング/第四の節目)
2020/6/24	金丸えみ	コロナ関連トピックス
2020/7/29	山口 正隆	テーマ1 「コロナ禍導入利点あれど一過性に テレワーク拒む日本的働き方」・・・ 中日新聞 2020.7.15 より テーマ2 感染症の歴史 「世界を変えたパンデミック」 テーマ3 人類の未来年表「統計でみる！日本の人口減少と世界の人口急増：未来の問題をデータで解く」
2020/8/26	花井 健夫	マイクロプラスチックの海洋汚染対策～生分解性プラスチックの現状と課題
2020/9/23	井上 祥一郎	反骨技術に導かれる技術者人生 I. トリウム熔融塩炉 II. オオカミの再導入 III. ケイ藻優占化シリカ供給技術
2020/9/23	野々部 顕治	11月度講演会計画
2020/10/29	長谷川 欽一	「生産性について」
2020/11/25	水野 公元	5Gに利用されているテクノロジー
2020/12/23	野々部 顕治	南知多の某えびせん工場における焼成炉の保温省エネ技術について
2021/1/27	大磯 勇己	サーバーについてのまとめ
2021/2/24	松田 則雄	中国は何を考慮どう行こうとしているのか
2021/3/31	金丸えみ	新型コロナ(COVID-19)ワクチンについて

3. 今年度の活動

当面はCOVID19の影響は続くと考えられるので、Zoomでの開催を念頭において進める。なお、話題提供は以下の予定をベースとする。

日付	スピーカー 敬称略	テーマ
2021/4/21	森永泰彦	GDP から作業日報をみる
2021/5/**	前田 武光	災害地名の例示
2021/6/**	高木 俊一	
2021/7/**	山口 正隆	
2021/8/**	花井 健夫	(仮題)法令に基づく化学物質のリスクアセスメント
2021/9/**	井上 祥一郎	
2021/10/**	長谷川 欽一	
2021/11/**	水野公元	
2021/12/**	野々部 顕治	
2022/1/**	大磯 勇己	
2022/2/**	松田 則雄	
2022/3/**	森永泰彦	

4. 一般社会への発信

社会貢献活動の一環として発信対象、発信チャンネル等に関し例会で検討する。

2020年度理科支援活動報告と2021年度計画

2021年4月1日
理科支援担当 野々部顕治

1. 2020年度の理科支援事業の取り組み

1-1 特別講師実施状況

2020年度は小中学校で14件特別講師を実施した。愛知県は比較的多く、次いで静岡県が多かった。また2019年度からナスもルラボ講座にも取り組んでいる。詳細は表1参照のこと。

新型コロナの影響で大きく減少することも心配されたが、昨年の16件と比較して2件の減少にとどまったため、決して悪くはない数値と言える。

それ以外に特筆すべきことと言えば、2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されてことである。そのため14件中5件がプログラミング教育に関連した特別授業であった。

表1 2020年度に小中学校などで実施した理科特別授業

小中学校での特別授業

名古屋市

No.	日付	学校	講師(敬称略)	題目	学年、組	備考
1	2月19日	名古屋市立瑞穂小	加藤信夫	プログラミング教育		調整中

愛知県

No.	日付	学校	講師(敬称略)	題目	学年、組	備考
1	7月8日	安城市立里町小	長谷川欽一	天災に対する防災・減災・避難対策	5-1,2	
2	7月14日	岡崎市立六ツ美中部小	野々部顕治	水中の小さな生き物を観察しよう	6-1,2	
3	7月31日	幸田町立中央小	野々部顕治	水中の小さな生き物を観察しよう	6-1,2,3	
4	8月5日	半田市立半田小	加藤信夫	パソコンで正多角形をいろいろ描いてみよう。	5-1,2	
5	8月24日	愛西市立永和小	加藤信夫	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1,2	
6	12月2日	東浦町立生路小	新實智嗣	私たちの住んでる町の地形と地層	6-1,2	
7	2月10日	長久手市立市が洞小	加藤信夫、 谷口芳和	パソコンで正多角形をいろいろ描いてみよう。	6-1,2,3,4,5	
8	2月17日		加藤信夫、			
9	10月30日	東浦町立石浜西小	新實智嗣	私たちの住んでる町の地形と地層	6-1,2	

静岡県

No.	日付	学校	講師(敬称略)	題目	学年、組	備考
1	6月23日	藤枝市西益津小	柴田達哉	地震発生の仕組み	5-1,2	
2	7月9日	袋井市立今井小	角入一典	土の種類による液状化現象の違い	6-1,2	
3	11月20日	下田市立朝日小	安田英人	プログラミングについての体験	4-1	
4	1月25日	富士市富士第二小	北本達治	花火の色はなぜ赤かったり、黄色だったりするのだろうか	5-1,2,3	

他の教育イベントなど

No.	日付	場所・イベント名	講師	題目・講座	対象	備考
1	10月11日	ナスモルラボ講座	新實智嗣	私たちの住んでる町の地形と地層	5,6年	
	10月25日		谷口芳和	世界一簡単なモーターを作ろう	〃	
	12月6日		野本健司	エコキャンドルを作ろう	〃	
	2月28日		野々部顕治	水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう	〃	
2	8月6日	夏休み環境学習講座	加藤信夫	ネイチャーテクノロジーを学ぼう	小学生以上	愛知県
3	8月22日	静岡県地震防災センターこども防災教室	静岡県支部5名	こども防災教室	小中学生	静岡県

1-2 理科実験授業研究会

下記の2回実施した。4月と7月にも実施する予定だったが、新型コロナによる感染防止のため中止とした。また10月は講演会を実施する予定だったが、これも同じく新型コロナの影響で講師を招聘してのプレゼンは困難と考えたため、理科実験授業研究会とした。

表2 2020年度に小中学校などで実施した理科特別授業

日付	場所	内容	題目	講師(敬称略)
10月18日	Zoom+ 中部本部 会議室	実施報告	小学校の授業で実施したプログラミング教育について	加藤信夫
1月31日	Zoom+ 中部本部 会議室	実施報告	プログラミングについての体験	安田英人
		実施報告	小さな生物を顕微鏡で観察しよう。そしてウイルスに負けないためには？	野々部顕治

1月31日の安田先生のプレゼンは、記念すべき100回目であった。第1回目は2007年11月17日に春田要一先生が実施された「身の回りのもので電池を作ろう」であり、それから13年以上かけて100回目に到達した。

2 2021年度の主な計画

- ① 各教育委員会などに対し、これまでと同様に積極的な提案活動を行う。昨年度に引き続いて、プログラミング教育に力を入れる。
- ② 各小中学校へ理科支援員特別講師を派遣する。
 - ・目標を20件とする。
 - ・統括本部、中部本部及び山崎財団などの支援制度を大いに有効に活用し、実施件数を増やす。
- ③ 理科実験授業研究会を継続実施し研鑽をする。2020年度の後半になってZoomを用いたオンラインの配信方法をほぼ確立し、会場でのプレゼンと併用したが、今年度も継続する。
- ④ 10月31日(日)に理科支援講演会を実施する。
- ⑤ その他理科支援活動の実施
 - 「ナスもルラボ講座」「キッズワークショップイベント」「一日まちのふれあい科学館」などに出展する。